

八王子市男女共同参画センター

八王子市男女共同参画センター

八王子市では、男女共同参画センターを拠点として、性別にかかわらず一人ひとりが個性と能力を発揮できる社会の実現を目指しています。



開館時間

月～土曜日：午前9時～午後7時
日曜日、祝・休日：午前9時～午後5時

休館日

年末年始（12月29日から1月3日まで）
原則・毎月第1火曜日（館内点検日）

所在地

八王子市東町5-6
クリエイトホール8階

JR八王子駅または
京王八王子駅から
徒歩4分

八王子市男女共同参画センター

女性のための相談

電話相談

市内在住の女性の抱えるさまざまな悩みや問題について、男女共同参画センターの相談員がお話を伺います。

専用電話 [042-648-2234](tel:042-648-2234)

専門相談

夫婦・家族間の悩み事、生き方や人間関係の悩み、女性の人権に関わる法律や裁判の相談に、専門の女性相談員が応じます。

ほっとタイムサービス

クリエイトホール館内で学習活動をされる方のお子さんをお預かりします。（要予約）

LGBT電話相談

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、さまざまな相談に応じます。どなたでも相談できます。

専用電話 [042-648-2238](tel:042-648-2238)

講座・イベントの開催

男女共同参画への理解を促進するための講座・イベントを開催しています。

情報の発信

男女共同参画情報紙「ぱれっと」や市のホームページなどで男女共同参画に関する情報を発信しています。

八王子市男女共同参画センター

Zoomウェビナー
講演会
(オンライン形式)

男女共同参画週間記念講演会

息子3人、
アナウンサーパパの
子育て奮闘記

かさい しんすけ
笠井 信輔 さん
(フリーアナウンサー)

早稲田大学を卒業、1987年4月フジテレビにアナウンサーとして入社。「とくダネ!」のキャスターを20年間務め、東日本大震災の取材では連続1か月ほど滞在。2019年9月フジテレビを退社しフリーアナに。2か月後に「男性リターンズ」という番組のメインパーソナリティに。4か月半の入院、近頃お笑い番組で「阿呆博士」となり仕事再開。11月に夫と再婚し「生きる力〜日常の輝きと愛の絆〜」(KADOKAWA)出演。現在さらに仕事の輝きを磨いている。

日時 令和3年(2021年) **6月27日(日)**
午後2時~3時45分

対象 八王子市内在住・在勤・在学の方 **定員** 250名(抽選)

形式 Zoomウェビナーによるオンライン形式
講演会の収録にはインターネット環境が必要です。
Zoomの利用料は無料ですが、ダウンロードや同時にかかると通信料は各自負担となります。

申込方法
令和3年(2021年)6月10日(木)までに、メールに以下の必要事項を記入して、八王子市男女共同参画センター (b050900★city/hachioji.tokyo.jp)へお申込みください。
(※メールアドレスの「★」記号は「@」に置き換えて送信してください。)

①「講演会」、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号、⑥Zoomの利用経験の有無
※抽選結果は当選・落選にかかわらずメールで通知します。八王子市男女共同参画センターのメールアドレスが受信できるように設定してください。

主催・問合せ先：八王子市男女共同参画センター(電話:042-648-2230)

令和3年度男女共同参画週間講演会

「息子3人、アナウンサーパパの子育て奮闘記」

フリーアナウンサー 笠井信輔さん

オンラインで行った講演では、立ち会い出産のために生放送の番組を休んだ際の当時のドタバタや苦労話をはじめ、子育ての楽しさをお話いただき、ワーク・ライフ・バランスの重要性や共働き夫婦が子育てを乗り越えるヒントを紹介していただきました。



👉 八王子市男女共同参画センターの講座情報についてはこちらから

八王子市男女共同参画センター

広報はちおうじ特集号

男女共同参画情報紙

ぱれっと vol.42

2.1
令和4年
(2022年)

八王子市 市民活動推進課男女共同参画課(男女共同参画センター)
〒942-648 2230 ☎042-644-3910

違いを受け入れて
寄り添うことが大切です

インタビュー すずき あきこ
鈴木 明子さん

プロフィギュアスケーターや振付師として活躍するオリンピックの鈴木 明子さんに、フィギュアスケートから考えるスポーツとジェンダーについてお話を伺いました。

※「女性だから」「男性だから」といった社会によって作り上げられた性差のこと、それ自体に良い、悪いの価値を言わぬのではなく、国際的にも使われています。

ジェンダーの視点から見る
フィギュアスケート

フィギュアスケートは氷上でのジャンプやスピンの、ステップなどの振付も、プログラムの構成や曲の解釈といった芸術性を競うスポーツです。一人で滑るシングルは男女別ですが、選手に求められるものに性別による違いはあまりありません。

他のスポーツとフィギュアスケートが大きく異なる点は、プログラムで使用する曲や衣装も競技を構成する重要な要素の一つとなっていることです。多くの選手は、例えは陸上競技を観戦して、ユニフォームの印象で選手を覚えることは少ないのではないかと感じます。

フィギュアスケートは曲からイメージを膨らませて、振付はもちろん、衣装や髪型、視線や指先の動きなど細部にまで気を配って演技をします。つまり、演技を見てくださる方にとどんな印象を与えたいかを軸に振付で、自分自身をトータルプロデュースしているのです。そのため、選手にとって、「この曲といえば」や、「燃えるような赤い衣装といえは」と覚えてもらえたいのは、フィギュアスケートの醍醐味です。

ジェンダーの視点から衣装に着目してみると、かつて女性はスカートの着用が義務付けられていました。しかし、規則が廃止されてからはパンツルックの選手も増えてきています。一方、男性は未だに長パンツの着用が義務付けられています。とはいえ、最近ではフリルやレースをあしらった華やかな衣装や中性的な印象をさせる衣装の選手も多く見られます。観たところによると、少し前までは「男性がフリルの衣装を着るなんておかしい」という風潮があったそうです。自由な表現が認められるようになってきていると感じます。




男女共同参画情報紙「ぱれっと」42号

プロフィギュアスケーター 鈴木明子さん

インタビューでは、鈴木明子さんが感じたジェンダーの視点から見たフィギュアスケートや性差への理解、一人ひとりを尊重し違いを受け入れて寄り添うことの大切さをお話ししていただきました。

「ぱれっと」42号及び
「ぱれっと」バックナンバー
については、八王子市ホームページにてご覧いただけます。

ぱれっとバックナンバーについては 
こちらから

